

アンジー・ゼルターの新しい本“Activism for Life”の紹介

-- 法と説明責任に基づく非暴力直接行動で世論を動かす

豊島耕一，福岡核問題研究会，2021/5/29

著者 アンジー・ゼルター (Angie Zelter) , Luath Press, 2021

同氏の他の主な著書

Angie Zetler, Trident on Trial -- People's Disarmament And the Trident: The Case for People's Disarmament, Luath Pr, 2001

Angie Zetler (編集), Faslane 365, Luath Pr, 2008

関連本：Stellan Vinthagenほか，Tackling Trident, Lulu.com, 2012

年譜（6 ページにわたる詳細な表から抜粋）

1951年生まれ

1972年 レディング大学卒業（哲学・心理学）

1972-75 カメルーンで援助活動

1983 グリーナム・コモン¹運動（米軍基地閉鎖要求，巡航ミサイル配備反対）

1984-88 「スノーボール」キャンペーン. アメリカがヨーロッパに中距離核 (INF) を配備しようとしたのに対する抗議

1991 「アース・ファースト！SOSサラワク」行動，3ヶ月の拘留．資本による森林破壊，木材収奪への抗議．

1993 地元ノーフォークで”CRISPO”運動（the Citizens' Recovery of Indigenous Peoples' Stolen Property Organisation）．不法に輸入された店舗に置かれた木材製品を警察に届ける「倫理的万引き」行動．ロンドン，ハロッズでも．

1993-96 イギリス森林ネットワーク（UKFN）設立に参加，コーディネーターを3年務める．

1996.2 「Seeds of Hope - 東チモール・プラウシェアズ」行動．ホークジェット戦闘機を破壊．

1996.6 同，無罪判決

1997 この行動に対して3名とともに国際平和ビューロー・ショーン・マクブライド平和賞を受賞

1997夏 ”Tri-Denting-It”ハンドブック作成に着手（日本語訳あり）

1998.3 「トライデント・プラウシェアズ」計画開始（広島では大庭里美，アンニャ・ライトが記者会見）

1999.6 Loch Goilアクション（ゴイル湖アクション）

1999.10 同，無罪判決，グリーンノック地裁

2000.3 日本講演ツアー，北海道から沖縄まで8都市10会場．

2000.10 グリーンノック判決に関する高裁審理

2001.12 ライト・ライブリフッド賞²を受賞

2002 IWPS（国際女性平和サービス，パレスチナ）設立

2004.6 エジンバラ議事堂で合唱パフォーマンス，オラトリオ”Trident: A British

	War Crime’. 2015年3月には英国議会ロビーでも.
2007-2007	「ファスレーン365」（ファスレーン基地を継続的に封鎖. 日本からも12名のチームで参加）
2012.2-3	ジェジュ国際平和カンファランス（韓国, ジェジュ島）およびガンジョン村での抗議行動（軍港建設反対）
2018.3	エクシテンクション・レベリオンに参加
2021.1	核兵器禁止条約発効を祝って一斉に教会などのベルを鳴らす活動

各章のタイトルと主な内容

- 1 **The Beginning: Cameroon, Sustainable Living and Greenham**
カメルーンでの経験. 先進国による支配, 収奪を体験, グリーナム・コモン運動に参加
- 2 **Carrying Greenham to Norfolk and the Snowball Campaign**
「スノーボール」キャンペーン
- 3 **Building Networks of Resistance at Home and Abroad**
サラワクでの活動, 投獄を経験, 地元ノーフォークで”CRISPO”運動
- 4 **Preparing and Following Up Actions**
東チモール・プラウシェアズ行動, CAAT(武器取引反対キャンペーン)
- 5 **Reclaiming International Law and Making it More Accessible**
「トライデント・プラウシェアズ」キャンペーン, 準備
- 6 **Legal Challenges**
ゴイル湖のトライデント「非武器化」行動（disarmament action）と無罪判決
- 7 **International Solidarity** イスラエル, パレスチナ
- 8 **Continuing the Struggles Worldwide**
ファスレーン365（別著に詳細）, 韓国・ジェジュ島での行動
- 9 **It Never Ends**
- 1 0 **Police, Prisons and Hot Springs** 警察, 監獄, 温泉
- 1 1 **Linking Our Struggles in One World** （世界中の闘いと結び合う？）
- 1 2 **Lessons Learnt** 教訓集

いくつかのエピソード ([]内の数字は, 該当頁と段落番号)

1 章

雑誌「エコロジスト」の特別号”Blueprint for Survival”で目を開かせられる. アフリカでボランティア活動. しかし問題は搾取・収奪をする先進国の側にあることを知る. グリーナム・コモンで最初の逮捕[23-4].

2 章

2度目の逮捕の1週間の拘留で警察と留置場の実態を知る.

「スノーボール」キャンペーン：スカルソープ米軍基地（ノリッジ北西40キロ）のフェンスのワイヤ1本を切る運動。実害は及ぼさないが警察は起訴せざるを得ないので、法廷で核兵器と基地の有害性をアピールできる[27最後]。

3人で、プレスを伴ってスタート。1ヶ月後に9人、しかし2ヶ月後は3の3乗（27）に届かず。そこで横に広げることにより、著名人の賛同も得る。1986年2月の50名の裁判では法廷は地元の市民で溢れる[29-3]。地元紙は、なぜこんなにたくさんの市民が牢屋に行くことになったのか、そして核兵器の問題を大きく取り上げた[30-1]。

「スノーボール」はスコットランドとウェールズにも広がり、ドキュメンタリーがテレビのプライムタイムに放映。

得た教訓：やらないよりはやって失敗する方がマシ。試行錯誤も大事。より大事なのは、自分が始めたからといってその運動を「所有」してはならない。「創設者シンドローム」に注意。どんな段階でも自分が関わらなければならない、と考えること。「手放す」ことを学ぶ。[30-4]。出版も含め、様々なメディアの活用。

活動が可能だった条件：大家族でその支えがあった。罰金や差押さえを避けるユーモラスな方法[31-32]。参加者にはそれぞれの事情があり、役割がある。逮捕を受け入れられる人、不可能な人。どちらが優れているということはない。無名のままの人々（unsung and unnamed people）への敬意。

3章

80年代初頭、反戦運動の甲斐あって巡航ミサイルやINFの配備は撤回され、核戦争の脅威が減る。元の関心事であった先住民の権利の問題に復帰。1991年、サラワクで森林乱伐防止活動を国際チームで実施。伐採木材を積んだバージを占拠し、逮捕、2週間の拘留。グループのうち6人は早期釈放のため有罪を認め、アンジーともう一人（アンニャ・ライト）は無罪を主張し、裁判。有罪判決後保釈を認められた。

他の被告は弁護士をつけたが、アンジーは自分自身を「代理」し弁護。そのメリットが書かれている。（4章のケースでも。[55-1]）

刑務所内で他の囚人たちと拘留し、それら「犯罪者」の実態と背景の社会を知る。保釈後は秘密警察の尾行を逃れ、現地の住民と生活し、森林とともに生きる人々の暮らしと、それが破壊される様を見聞する。（どう出国できたか不明だが）国に戻ると、この「違法に伐採され輸入された」木材を使った商品に対する「倫理的万引き」活動を開始。CRISPO (the Citizens' Recovery of Indigenous Peoples' Stolen Property Organisation) と称す。

この活動は大きな反響を呼び、木材輸入業者のためのセミナーや、1995年には「マホガニー円卓会議」が開催された。「投資家対国家の紛争解決制度(ISDS)」の問題性。

4 章

インドネシアに輸出される直前のジェット戦闘爆撃機の非武器化（破壊）．東チモールの住民の虐殺に使われることが明白だったため，用意周到な破壊工作を実施．3 人の実行チームと時間差でメディア対応などにあたる 1 名（アンジー）．1 年がかりで10人で計画を練る（6人は表に出ない）．この問題についての包括的な資料と20分のビデオを制作，また10年の刑を覚悟してそのための準備もした．

この「最後の手段」の前に，関係者に手紙を書き，ヴィジルをやり，輸出主ブリティッシュ・エアロスペース（BAe）の株主に訴え，また会社幹部にも申し入れをした．これらの事前の努力の実績は，法廷で裁判官と陪審員に「最後の手段」の正当性を理解させるのに重要であった．

1996年1月29日に非武器化を実行，3人は自ら通報するとすぐに逮捕されたが，アンジーは2月6日に共謀罪で逮捕されるまでメディアに事情を説明するなどの時間を確保できた[53-4,54-2]．陰のメンバーの6人は，裁判が開かれている期間，リバプールの通りの行進を組織するなど世論に訴えた[53-2]．事前に作ったビデオは検察側も証拠として使ったため，陪審員へのアピールの効果も持った[55-2]．7月30日に無罪評決．岩波の「世界」に詳細³．

釈放された後は「武器取引反対キャンペーン」（CAAT）のボランティアとして様々な活動を行った．

（筆者注：同様の戦闘機破壊とそれに対する無罪判決がアイルランドであった⁴．事件が2003年，判決が2006年の「ピットストップ・プラウシェアズ」事件．）

5 章

国際司法裁判所の「核兵器は一般的に違法」の決定を契機に，再度核兵器問題へ．トライデント原潜を非武器化する「トライデント・プラウシェアズ」（TP）を立ち上げる．ハンドブック作成（筆者らが日本語訳⁵[63-1]）．1998年5月2日，広島、ロンドンなど5都市で開始宣言[61-3]．ファスレーン基地の司令官がハンドブックを1部申し込む[61-last]．一般と同じ代金を請求した．

6 章

1999年6月，アンジーを含む3人の女性による，ゴイル湖（Loch Goil）での原潜試験施設「メイタイム」を破壊[67-1]．法廷ではアメリカの著名な国際法学者やドイツの判事が証言に立つ．同年10月無罪評決．メディアの反応は大きく，いくつかの新聞は「4人の中年の女性はいかにして英国の防衛力を沈没させたか」⁶と書いた．

困惑した政府は、スコットランド最高法院に対して「法務長官の事件付託」という手続きに出て、判例としての効果をなくす試み(?)に出た。結果は政府に有利な裁定(2001年3月)。

これより先、1999年2月にはバロー(Barrow)での2人の女性グループによる原潜損壊行動。2000年9月不一致陪審、事実上の無罪[この件については記載なし]。

(6章と8章は筆者と三好さんがリアルタイムで関わったことが含まれます。)

* 5章、6章の「トライデント・プラウシェアズ」に関しては、日本の支援サイトに多数資料があります。 <http://ad9.org/goilsupt/goilsupt.html>

¹ ロンドンの西約80キロ。1991年に閉鎖。

² 日本人の唯一の受賞者は高木仁三郎氏(故人)。

³ アンジー・ゼルター「地球市民の責任 東チモールとプラウシェアの平和運動」、『世界』1999年11月号、120～128ページ。

<http://ad9.org/pegasus/peace/sekai9911.html>

⁴ <https://pegasus1.blog.ss-blog.jp/2006-07-31>

⁵ ウェブで公開。 <http://ad9.org/pegasus/peace/tp2000/handbook/tdihb0.html>

⁶ 引用者注：3人のはず。